

平成 29 年度 栗東市バス対策地域協議会(第 1 回)

議 事 録

[開催日時] 平成 30 年 2 月 8 日(木) 10:00～

[開催場所] 栗東市役所 2 階 第 1 会議室

[出席者] 清水会長、道久委員、芝委員、加藤委員（代理者 枝元氏出席）、黒田委員、
大西委員（代理者 中島氏出席）、立川委員（代理者 北村氏出席）、
隠岐委員（代理者 小泉氏出席）、山田委員、野村委員、坂田委員
平田副市長、中濱建設部長（委員）、事務局（建設部土木交通課）

[欠席者] 坂口副会長、竹中委員、大崎委員、川口委員、濱田委員

[会議概要]

1. 開 会
2. 挨拶
 - ・清水会長挨拶
 - ・平田副市長挨拶
3. 協 議 事 項
 - (1) 地域内フィーダー系統確保維持計画について
 - (2) くりちゃんバスの利用状況・収支状況について
くりちゃんバス利用者に対するアンケート調査の報告
 - (3) その他
 - ・栗東市の現状について
 - ・くりちゃんバス「大宝循環線（近江鉄道㈱運行）」の延伸について
6. 閉 会

[議事内容]

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 協議事項

- (1) 地域内フィーダー系統確保維持計画について
 - (2) くりちゃんバスの利用状況・収支状況について
- (1)、(2)について、事務局より内容説明

主な意見など

委員より

- ・収支率を上げるためにどのような努力をしていくかが大切である。
- ・前向きに収支率18%はきつい。
- ・収支率を上げようと思うと、利用者の少ないところの路線を見直しする必要がある。

事務局より

- ・昨年度は目的が高い方がいいとの意見から高めを設定している。

委員より

- ・バス対策協議会はバス路線の維持について協議していく場である。
- ・収支率の議論も大事だが、サービスをどうしていくかを計画に入れるのが大事。
- ・他市にまたがりバス運行されているところと地域公共交通確保保持維持改善事業に関する報告で評価されていました。
- ・地域内フィーダー系統平成24年度（地域幹線経路に対する補助金）から年々減額、市町の負担が増になってきている。
- ・目標にアンケートの結果を含んだ内容にするべきである。
- ・持ち帰って次に満足度を上げるための計画をたてるべきである。
- ・利用者の満足度が上がっていれば収支率のアップだけが補助金を認めてもらえることではない。
- ・アンケートを分析して計画に反映してほしい。
- ・乗っている人だけのアンケートではだめ。市民の税金を使っているのだから市民の意見を聞くべきである。
- ・アンケートを分析する中でやっぱりバスは必要となればバス運行していくことになる。
- ・課題説明があり、それで計画をたてて説明。承認となるが、進める内容が逆である。

会長より

- ・(1)(2)は整理してフィーダー系統の計画を立案して説明してもらい承認していきます。

委員より

- ・人口の減っているところはバスの利用者数が少ない。バス事業者にとっては、人口の動きに神経を使っており、栗東市の現状としての人口の基礎データは、国勢調査なのか住民基本台帳からなのか、統一してほしい。

(3)その他

- ・くりちゃんバス「大宝循環線（近江鉄道株運行）」の延伸について
事務局より内容説明

主な意見など

会長より

- ・手原は生活圏が草津であり、出庭は生活圏が守山である。
- ・宅屋線の延伸は、生活圏と行先が合致したため利用者数が伸びていると言える。
- ・大宝循環線の延伸で利用促進につながるのか。
- ・大宝は生活圏が草津ではないか。

委員より

- ・半年もしくは1年と期間を決めて1便当たり何人以上乗るか、実証運行をしてみたらどうか。
- ・実証運行結果を基に、利用者数に応じてやめる判断をしてもいいのではないか。
- ・半年や1年といった短期間の実証運行は、バス会社や運転手にとって非常に厳しいものである。最低でも3年程度の長いスパンで見てもらわないと、半年や1年では人員の配置などで無理がある。

以上